

2024年2月15日

## 環境論壇「脱炭素と両立する循環経済の構築」への投稿の呼びかけ

一ノ瀬大輔・中谷隼・横尾英史・笹尾俊明

『環境経済・政策研究』第17巻第2号の環境論壇のテーマは「脱炭素と両立する循環経済の構築」です。

欧州のイニシアティブで進行中の「循環経済」に向けた動きは、日本での「循環型社会」の推進に関する議論やビジネスにも大きな影響を及ぼしています。日本の「循環型社会」が廃棄物処理政策の延長線上で3Rを推進してきたのに対し、欧州の「循環経済」では「持続可能な成長」を目標に、製品のサプライチェーンや消費スタイルの見直しを含む経済の再設計まで踏み込んでいます。循環経済では、モノの生産・流通から消費・廃棄・回収までのライフサイクルを通じた管理が求められ、動脈産業と静脈産業の連携促進が要となります。

一方で、循環経済の取り組みは気候変動緩和に向けた脱炭素の取り組みと両立するものでなければなりません。しかし実際には、電気自動車のバッテリーや太陽光パネルのように、脱炭素に寄与すると期待される製品であっても適正処理や資源循環のルートを整備しなければ、循環経済と脱炭素の間のトレードオフが生じる可能性もあります。

また、人口減少が進み、地域経済の衰退が懸念される日本では、製品や資源などの市場に着目した循環経済の形成だけでなく、地域社会においても脱炭素型の循環システムの構築や取り組みが求められます。

本号では、脱炭素と両立する循環経済の構築に向けた政策や制度のあり方、循環経済と脱炭素に寄与する地域社会での取り組み等について論じた原稿を募集します。例えば、現在、国際条約の策定が進められているプラスチックをはじめ、食品廃棄物・食品ロスなどの個別分野に関する論稿や、地域単位での脱炭素型の循環システムづくりなどがテーマになりえます。単なる理念論ではなく、具体的な事例研究を含む論稿を歓迎します。

### 【原稿執筆・投稿に際しての注意点】

- 『環境経済・政策研究』投稿規定・執筆要領（2022年7月改定版）  
[http://www.seeps.org/pdf/journal/jj\\_instruct2022.pdf](http://www.seeps.org/pdf/journal/jj_instruct2022.pdf) のとおりに原稿を執筆し、投稿してください。
- 環境論壇ではご自身の研究結果を含まなくとも構いませんが、他者の研究結果・データ・主張等を用いる場合は、必ず出所を明確にしてください。また総説の紹介ではなく、ご自身の視点で主張を展開してください。様々な分野の専門家および一般市民を対象としたものであることを念頭に置いて、高度に専門的な論考はお避けください。

- 投稿は和文誌『環境経済・政策研究』の投稿システム (<https://iap-jp.org/seeps/journal/>) から行ってください。(※初回はログイン画面下の新規カウントの発行が必要です。)もし投稿システムからの投稿ができない場合は、和文誌編集事務局([reeps-edit@bunken.co.jp](mailto:reeps-edit@bunken.co.jp))までご連絡ください。

**【投稿締切】**

2024年5月31日(金)

**【投稿後の留意点】**

- 投稿された論考は、編集委員会で迅速に査読を行い、掲載の可否を決定します。その際、修正を求めることがあります。査読結果を踏まえた修正原稿の送付の際には、修正箇所がわかる原稿とあわせ、修正内容や照会事項に対する回答をまとめた一覧表も提出してください。(書式は自由です。)
- 掲載否となった場合、不受理の理由のみをお伝えし、査読報告書は特にありませんので、ご了承ください。